

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援センター ピノキオの家			
○保護者評価実施期間	令和7年9月16日		～	令和7年10月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	147名	(回答者数)	81名
○従業者評価実施期間	令和7年9月16日		～	令和7年10月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの姿に応じた多様な課題設定を行い、親子でさまざまな活動に取り組める環境を整えています。	・グループの子どもの様子に合わせて、活動内容や取り組み方を柔軟に変化させています。 ・一人ひとりのニーズを踏まえ、集団活動の中で課題内容や難易度の調整を行っています。	・活動後のミーティングで子どもの様子や次回の活動目的を共有し、職員間で共通理解を深めていきます。 ・職員同士の連携を強化するとともに、保護者への丁寧なフィードバックを継続して行います。
2	親子通園を行っており、子どもの集団での姿を保護者と共有しやすいといえます。	・その日の様子や前回からの変化を適宜共有し、職員の関わりを見て安心して通園できるよう心がけています。 ・集団活動での姿を丁寧に伝え、子どもの強みや課題への理解が深まるよう支援しています。 ・発達検査や医療・言語の専門支援を利用しやすい体制を整え、保護者のニーズに応じて多職種が連携しています。	・保護者の希望に応じて関係機関との連携を継続し、協働しながら子どもの発達を支えています。
3	医師・心理士・保育士・児童指導員など多職種が連携し、総合的な視点からアセスメントできる体制が整っています。	・必要に応じて発達検査を実施し、その結果に基づいて多職種が連携した支援を行っています。 ・協力医療機関との連携により、発達相談や個別言語指導など多面的な支援が可能な体制を維持しています。	・アセスメントに基づいた情報提供をさらに丁寧に行い、保護者がより良い選択をしやすいよう支援していきます。 ・子ども・保護者のニーズに合った支援の幅を広げ、継続して適切な助言とサポートを行っています。

就学に向けた情報共有を積極的に行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	同一グループ外の保護者同士の交流の機会が少ないといえます。	保護者同士が関わる機会として年度初めに交流の場を設けていますが、その日に参加できなかった方や、年度途中から利用を開始された保護者には、他の保護者となつなげる機会が十分に持ちにくい状況となっています。	・活動参加時に保護者同士が交流しやすい雰囲気づくりを行い、年度途中で利用を開始された保護者も安心して関われるよう、職員が仲介的な役割を意識して担っています。 ・ペアレントトレーニングは希望者が多い状況が続いているため、年長児保護者を対象とした実施に加え、家庭の状況や希望に応じて対象年齢の拡大についても引き続き検討していきます。
2	保護者対応をより充実させる必要があると考えます。	親子通園により保護者と話す機会は確保できていますが、活動の合間に短時間でお伝えする場面が中心となっており、ゆっくりと個別に相談を受ける時間を十分に確保しにくい状況があります。	・保護者の希望に応じて、グループ前後や別日に相談時間を設定する対応を行っていますが、相談したい気持ちがあっても言い出しにくい保護者もいると考えられます。 ・そのため、こちらから積極的に個別の時間を確保し、落ち着いて話せる機会を意識的に設けていくことが必要だと考えています。
3	多様な活動を設定している分、1つの活動に取り組む時間が短くなる場合があります。	短時間でさまざまな経験が得られるようプログラムを組んでいますが、その結果、活動ごとの取り組み時間が短くなり、子どもによっては「もっとやりたい」という気持ちを十分に満たせないまま次の活動へ移る場面があると考えられます。	・活動の意図や時間配分について保護者へ丁寧に説明し、共通理解を図りながら、状況に応じて柔軟に活動時間の調整やスケジュール変更ができるよう意識して取り組みます。 ・子どもも保護者も納得し満足できる活動設定を心がけ、取り組みに集中できる環境づくりを引き続き大切にしています。